

# 「シノドスが目指す 全員参加の教会へ向けて（1）」

たかまつしきょうく じよさい にしかわやすひろ  
カトリック高松司教区 助祭 西川康廣

はじめまして、私は和泉教会に属する信徒・兄より、小教区報に原稿を執筆してほしいと、以前より依頼を受けておりましたが、ようやく重たい腰を上げて、今回書いてみました。特にテーマが与えられなかったため迷いましたが、現在、全世界のカトリック教会において、2023年10月開催予定の第16回通常シノドス「世界代表司教会議」へ向けて、夫々が所属する教区で、シノドス（ともに歩む教会）として、（交わり・一致・そして宣教）を目指し、『傾聴』をテーマに分かち合いが進められているので、ここに目を向けながら、と一緒に考える機会になればと思いました。

シノドスと言えば「世界代表司教会議」ということで、有識者による会議の印象が強く、これまで信徒間では余り興味は示めされて来ませんでした。しかし、教皇フランシスコは、シノドス本来の姿、「全員参加の教会」を目指したいという思いで、2021年10月10日にシノドス準備開幕宣言をバチカンで開催し、その一週間後の17日から、教皇によって提示されたガイドブックに沿って、各教区で準備作業が始まりました。教皇フランシスコが就任以来ずっと呼び掛けられている言葉、それは「排除ゼロの世界」を目指そうです。2019年11月に日本を訪問された時のテーマも、「すべてのいのちを守るために」でした。教会内部においても同様のことが言えます。2023年10月のシノドスは、神の民の集まりである教会、即ち信者全員参加を目指したいという、教皇の熱い思いが、シノドス準備作業の中でも伝わって来ます。

第2 バチカン公会議は、教会とは何かを自問自答して次のように定義しました。「教会とは、神との親密な交わり、一致のしるし、そのための道具である」（教会憲章1）と。更に教皇は、羊の匂いがする牧者であってほしい。じっと閉じ籠って待つのではなく、自ら出掛けて行き、人々の叫び声に耳を傾け、野戦病院のように癒しのために働いてほしいと励まされています。私たちが教会は、洗礼と堅信によって油を注がれてキリストに属する者となり、それぞれの場所へ派遣されています。

キリストは、教皇フランシスコの口を通して、老若男女を問わず、身体的ハンディーや病気を抱えている人も、大人も子供も含めて「あなたも神の広大なぶどう園へ行って働きなさい」（マタイ20）と、日々呼び掛けています。

私は、1994年11月14～26日まで、フィリピンのマニラにあるバンブーオルガンで有名なラス・ピニャス教会において聖書を中心とした、キリスト教小共同体を育てていくための、リーダー養成コースに参加しました。この小教区は75000名の信徒に一人の主任司祭が担当していました。この小教区をいかに宣教共同体に育てていくかが、主任司祭としての大きな課題だったが、長年間の取り組みを紹介したのがこのセミナーの内容でした。セミナーには、アジア10ヶ国の教会から25名の代表者が集まりました。（内訳：信徒11人、シスター3人、司祭11人）

FABC(Federation of Asian Bishops' Conference)信徒局が、キリスト教小共同体を育ていく  
リーダーを養成するために、ASIPA(Asian Integral Pastoral Approach)と言う方法論を開発し、  
全員参加の教会を目指す目的で開発したセミナーであるが、お許しがあれば、皆様方に下記  
テーマに従って、少しずつシリーズでご紹介していくことができたと願っています。  
セミナーの要項は以下の通りです。

【テーマ】: 全員参加の教会を目指して(Towards a Participatory Church)

1. 教会の成長段階(Stage of church growth)
2. 気づきのプログラム(Awareness programs)
3. 聖書の分かち合い方法(Gospel sharing methods)
4. 基礎教会共同体(Basic Ecclesial Community, Basic Christian Community, Small Christian Community)
5. リーダーシップ(Leadership)
6. 社会奉仕(Social ministry)
7. インカルチュレーション(Inculturation)
8. 成人の入信の秘跡 式次第(Rites Community Initiation Adults)

次回に続く